

## 第1回原子力損害賠償・廃炉等支援機構 燃料デブリ取り出し工法評価小委員会 議事要旨

日時：令和5年3月29日（水）16:30～18:30

場所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 大会議室

議事要旨：

1. 燃料デブリ取り出しの工法検討の進め方等について  
委員等からの主な意見等は以下のとおり。

- いろいろな不確かさがある中で、我々の best available knowledge に基づいて工法を検討するというのが本委員会の主眼であって、それをもって鶏が先か卵が先か問題を解決しようという取組だと理解。
- 取り出しが最後まで完遂するように当然議論するが、不確かさがある中で、仮に途中で中断した場合にどのような情報が得られるかという視点も重要。
- どの工法であっても、Sv/h オーダーのバウンダリにならざるを得ないということを考えた上で、どうやって閉じ込め性能を確保するかが最も重要。実現可能性を考える上では、原子炉建屋のスケール感を共通認識として持ちたい。
- 困難ではあるが、決められる境界条件もある。例えば、工法を進めていく上での耐震要求。発電施設等に対し、100年続くわけではない作業においては、スナップショットでは満たす必要のない耐震要求があるはずで、これは決めの問題。
- 課題だけではなく、特に安全系については、トラブル等への対応も含めて提示していただきたい。例えば、冠水工法で水が漏水したとしたら何ができるのかというところまで含めて提示いただけると良い。
- 燃料取出しなどの作業の最終的な目的が何かを明確にして、その目的に対して不確かさがどのように影響しているのかという点について、それをどのように管理しながら進めていくのかというような観点での検討も大事。

- この委員会において、最終的にこの工法がということを公開すると思うが、その際、現時点ではこれを目標にして選択したということと併せて公開しないと社会に受け入れていただけない。
- バウンダリの議論は非常に重要。気密については、特に労働安全の観点で、換気のシステムが非常に大きな役割を果たすと思っている。
- 通常、何かを設計・開発していくときには、安全要件は何であって、その定量的な目標はどうしていったって、それを達成するためのシステムはどうなっていくかという進め方が重要。それぞれ工法の議論もそのような進め方になるかと思う。
- 安全要件について、通常炉の廃止措置と同様に、グレーデッドアプローチで、それぞれのリスクに応じて考えていければ良いかと思う。
- 問題が発生したときに、元の工法ステップに戻れるかどうか。工法により戻りやすさは違うので、工法を選択する上で、リカバーのしやすさというのは一つの観点。
- どの程度の時間スケールの中で、リスクを下げていくのかという点については、共通認識が必要。
- あらゆる時間スケールの中で、どのような場面でもリカバーができるかどうかということを考えていく必要がある。
- 大規模構造物の技術成立性の評価について、これまでの経験の延長線上でできるのではないかとこの考え方で判断してはどうか。

(以上)